

二〇一七年一〇月一七日(参加者一四名)

芝庭の落葉紛れに雀どち	うつぎ
秋霖や残念石の濡れそぼつ	うつぎ
団栗の掛かりし蜘蛛の留守圀かな	うつぎ
とび翔ちて雀とわかる庭落葉	うつぎ
霧深しダム湖は隠沼のごとし	せいじ
どんぐりを踏まねば行けぬ深山道	せいじ
秋天へ祈るすがたの天使像	せいじ
木の実落つ雨の石段な滑りそ	せいじ
雨だれが穿ちて池の水澄まず	たか子
古民家の煙ひとすじ秋時雨	たか子
総玻璃のビル秋霖に歪むごと	たか子
茶室への小径は石路の花あかり	満天
雨に耐へ皇帝ダリア花掲ぐ	満天
庭園の曲水に沿ふ石路の花	満天
水底に筏組むごと木の実敷く	わかば
実むらさきしとどの雨に垂るるなり	わかば
四圀紅葉して湖の藍深む	わかば

すがれ虫残念石のうしろから	かかし
五線譜をこぼるるごとく萩散りぬ	かかし
ほ句の秋句材求めて万歩計	宏虎
園めぐるとの径行くも木の実路	宏虎
薄紅葉水音高鳴る沢の道	はく子
萩雨に伏して山路をせばめけり	はく子
きのご展実物見よと小雨中	小袖
採れたるはみなこの辺てふきのご展	菜々
草紅葉石仏多き能勢の里	有香
絨毯のごと木の実敷く森の道	よう子

定例句会みのる選

二〇一七年一〇月一七日(参加者一四名)